

I

DXの取り組み

IKEUCHI  
ORGANIC

# 01 DX経営ビジョン



代表取締役  
池内計司

タオル業界において数少ない生産部門と直接販売部門を有するIKEUCHI ORGANICはファンとの距離の近さが大きな魅力である。この魅力を一層磨くために生産から販売までの業務システム全体をデジタル化・リアルタイム化することを前提に、いまだ、一部、デジタル化の遅れている生産プロセスのデータのリアルタイム化、商品在庫のリアルタイム化を優先的にデジタル化し、システムの統合で誰もがデータを活かせる体制で組織の最適化を図る。

そして、弊社の長期ビジョン創業120周年の

《2073年に赤ちゃんが食べれるタオルを創る》を目指す。

# 01 DX経営ビジョン

IKEUCHI ORGANIC は自社ブランドを中心に製造そして直接販売を推進し、しかも原材料をオーガニックコットンに特化し極めて独自の路線を歩んでいる。

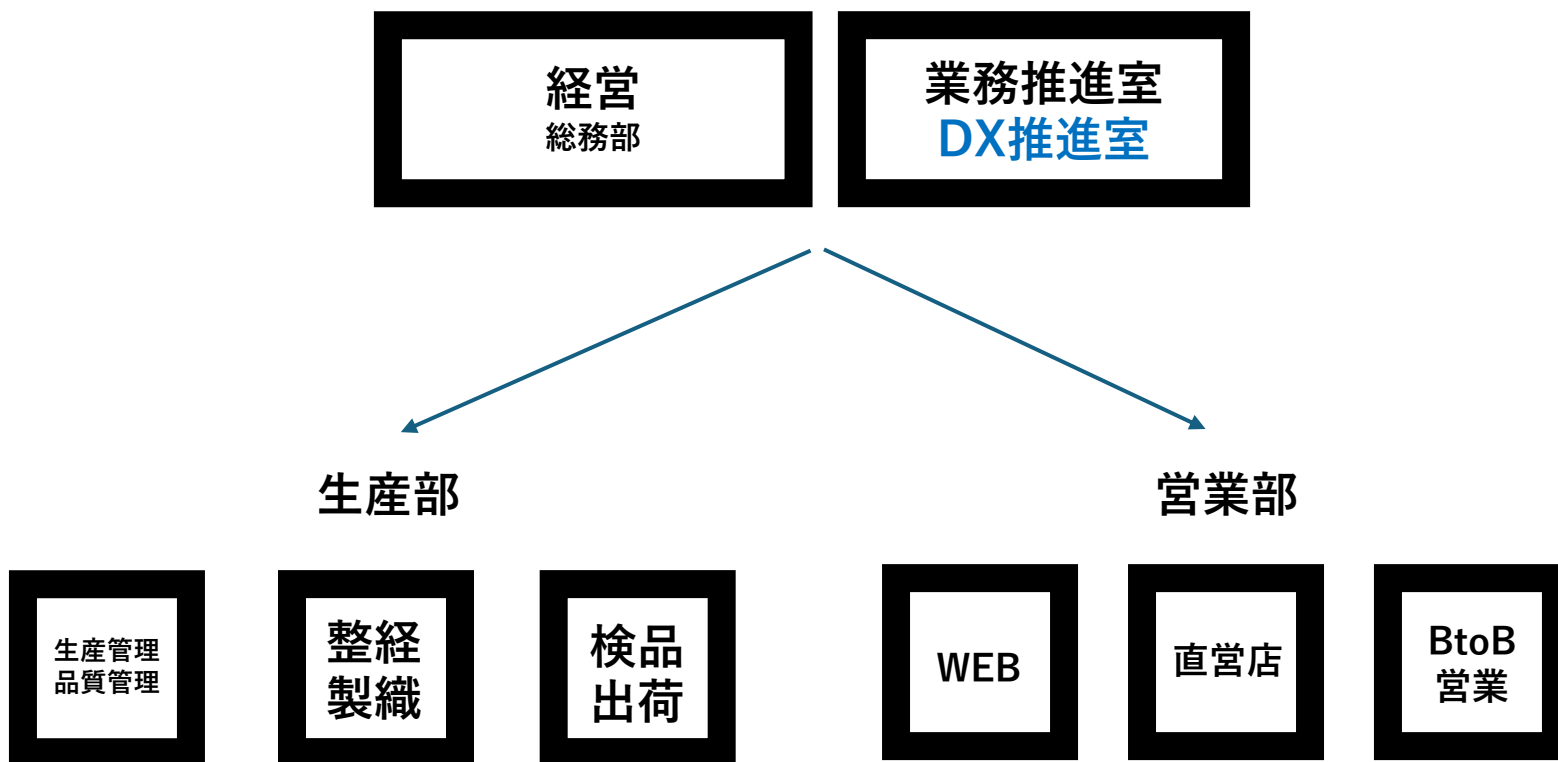
商品コンセプトは最大限の安全と最小限の環境負荷を徹底的に追求しており創業120周年の2073年には赤ちゃんが食べれるタオルを創ると宣言している。

熱烈なファン層に支持されるブランドであり、ユーザーとのファンコミュニケーションの濃密な関係が企業活動の根幹と確信している。

原材料の綿の生産農家から最終消費者までの商品に携わるすべての人々が笑顔になる生産営業活動を目指しており、この目標を実現するために、全情報をデジタル化し情報の透明性を実現するためにも、すべての生産販売行動のデータをデジタル化し、DXを推進する。

# 02 DX推進体制

①経営直轄の業務推進室を軸に全業務システムをデジタル化し業務システムを最適化する



# 02 DX推進体制

②IT人材や全体のスキル向上のため、外部講習会や外部IT企業との共創を積極的に推進する。デジタル化された業務プロセスの分析力を上げてPDCA（計画・実行・評価・改善）で効率的なDX推進を行うスキルを身につける

\* office365のビジネスインテリジェンスの習得

\* Microsoft Bing（ChatGpt）の習得

①経営陣はDXのための人材と資金を確保する

②経営者はDX推進室を中心に計画を明確にする

③中期計画の中で全社組織で動いているボトルネックの解消をDXの観点で検討する

# 03 DX推進計画

## ①第1期（2022-2024）

定番商品全数にRFIDを添付し在庫のリアルタイム把握を行う

## ②第2期（2024-2025）

織機にセンサーを設置し、生産工程のリアルタイム把握

## ③第3期（2024-2025）

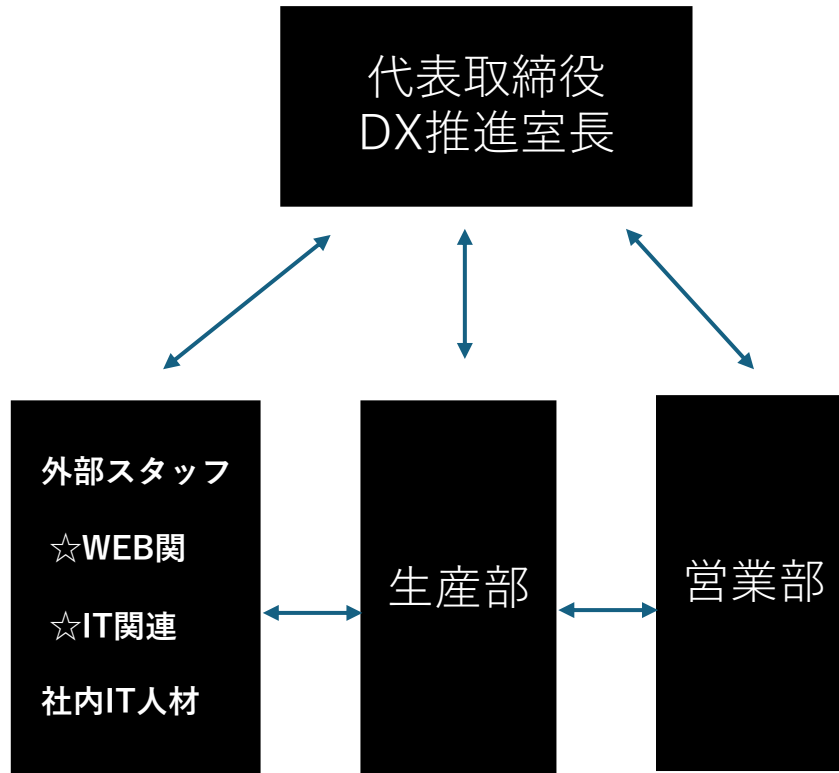
中核ソフト原価プロの入出力をシンプルに改善し、データ分析結果を社員全員の業務改善に活かす

加えて、WEB（フューチャーショップ）とストア（スマレジ、個人名簿）の顧客データを一元化する

## ④加えて職人の技のデータ化を探る

結果として効率の良い超少量超多品種生産を実現し顧客満足度を上げる。ボトルネックの解消をして生産納期を短縮しながら超少量超多品種生産を実現、在庫の削減、原材料のロス削減を実現させる。

# 03 DXの組織体制



小さい企業の良さを生かし、即決裁体制で短期間での完成を目指す体制を構築する

# 04 DX推進の達成状況を測る指標

生産販売の業務効率化の最終目標である

- ①生産納期の短縮
- ②在庫日数の縮小
- ③投入原材料のロス削減

の3つを設定し達成度を管理することによって、  
お客様の満足度の向上が期待できる。